

タイトル：「OICのアイデンティティ、その2—私たちの目的声明」

主な聖書箇所：<使徒の働き 2章 41節-42節> 「そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。<sup>42</sup>そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」

みなさん、おはようございます。みなさんすべてにまたお目にかかれてうれしく思います。先月、教派を超えた福音主義のプロテスタント教会としての大阪インターナショナル・チャーチのアイデンティティについて、私は一連の説教を始めました。その最初の説教で、私はこれら3つの形容詞、(1)プロテスタントであること、(2)福音主義であること、そして(3)教派を超えていることのそれぞれの意味を説明しました。私たちは異なる教派の出身ですが、正統派プロテスタントと福音主義キリスト教の基本的教義を堅持しています。これが私たちの共通点であり、プロテスタントと福音主義の基盤なのです。しかし、私たちは異なる教派の出身であるため、神学的視点やクリスチャンとしての実践において、私たちの中に多少の相違があるかもしれません。それでも、私たちは互いに慈しみ合い、クリスチャンとしての弟子訓練、交わり、奉仕、そして伝道という、クリスチャンとして生きていく上で必要不可欠なことを共に歩んでいくことを目指しています。

この説教シリーズのテーマ聖句は、ペンテコステの日について読んだ使徒の働き 2章から由来します。聖霊なる神様が百人以上のクリスチャンの弟子たちの上に劇的に降り注ぎ、使徒ペテロが有名なペンテコステの説教を行い、エルサレムの多くの人々が福音を受け入れた時です。使徒の働き 2章 41節-42節を読みましょう。

<使徒の働き 2章 41節-42節>

41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。

42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。

これらの初期のクリスチャンのライフスタイルは、まず使徒たちの教えに献身し没頭することでした。これは以前にも私から聞いたことがあり、先月のメッセージでも強調しようとしたことですが、しっかりとした教義の土台を持つことがとても重要なのです。しかし、キリスト教において重要なのは教義だけではありません。私たちは福音を広めること、つまり伝道を使命としています。イエス様がご自分の教会に与えた主な目的は、弟子を作ること、つまりイエス・キリストに忠実に従うクリスチャンになるようにすることです。聖書の学びを教え、説教をした後に私はよく思い出す聖書箇所があります。

その聖書箇所はテモテへの手紙 第一 1章 5節です。

<テモテへの手紙 第一 1章 5節>

この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。

聖書から学ぶ目的は、聖書の知識を増やすことではありません。聖書から学ぶ目的は、価値もなく罪深い快樂を追い求める以前の生活から離れ、その代わりに神様への愛と人々への愛に生きることを求めるようにと変えられた生活です。--純粋な心、聖い良心、誠実で基盤がしっかりとした信仰からの愛です。私たちは、聖書が私たちの心と思いを完全に満たすようにしなければなりません。そうすれば、私たちは聖書の基準に従って生き、神様を敬い、周囲の人々を祝福する人生を送ることができます。

私たちの心と思いを満たすべきは聖書だけではありません。また、私たちの人生と教会における聖霊なる神様の働きも極めて重要です。先週、私たちはゲストスピーカーを迎え、「聖霊なる神様に満たされた教会」について素晴らしいメッセージをいただきました。先週のゲストスピーカーが“聖霊なる神様は私たちの使命をまっとうするために私たちを満たしてください”と言われたのを聞いたとき、私は本当に感動しました。聖霊なる神様の力が働かない私たちの神様への奉仕は実りがなく、疲れます！私たちは聖霊なる神様の力で満たされる必要があります。今日のメッセージで述べるすべての活動や神様の働きに携わるとき、私たちは聖霊なる神様に満たされる必要があります。聖霊なる神様はクリスチャンを神様の働きをするために力づけるものであり、神様の力があらわれる神様の働きを行うためには聖霊なる神様に頼らなければなりません。

使徒の働き 2章 41節-42節に戻りましょう。使徒たちの教えを学ぶことに加えて、この聖句は、教会生活の重要な特徴である交わり、パンを裂くこと、祈りという3つの重要性を強調しています。私たちはまず、しっかりとした教義の土台の上に立つことを確認しなければなりません。そして次に、個人としても組織としても、クリスチャンとしての生活を営むことに取りかかります。個人として、また組織としてクリスチャン生活を生きます！先月は、私たちの教義の基盤に焦点を当てました。今日のメッセージは、キリスト教のコミュニティ、つまり教会としての私たちの共同生活に焦点を当てています。

新約聖書の他の箇所にも、教会生活の重要な特徴がいくつか記されています。それらの聖句は後で紹介しますが、その前に、これらのアイデアの多くを1つにまとめて述べられているところを紹介したいです。

それは大阪インターナショナルチャーチの教会規約にあります。

その教会規約の第2条には、大阪インターナショナルチャーチの教会規約の「目的」を記した文章があります。みなさんにその文章を読ませてください：

#### 第二条（活動目的）

この教会の目的は、神を礼拝し、イエス・キリストの福音を伝え、学びを施し、聖餐式と洗礼式を執り行うことである。我らの主による救いの知識を万人が授かるよう導き努め、神と共に礼拝するために信者をひとつに結びあわせ、人生のあらゆる関わりにおいてキリストをより深く知り、愛し、仕えることができるように尽くすことである。

先月、神学校での最後の授業で、最終課題としてこの一連の説教を構成したことをお話ししました。神学校の教授と最後のプロジェクトのアイデアについて話し合ったとき、この文章を見せると、教授は「ああ、これは実によく記述されています。この最後のプロジェクトを改善するために私ができることは何もないと思います。どの教会にとっても、教会の目的についてのこの文章は立派です。」とおっしゃいました。

本日のメッセージの主な焦点は、私たちの教会目的の記述に述べられている様々な活動です。これらは教会生活の最も重要な特徴です。それぞれの活動をもっと詳しく見てみましょう。

#### パート 1: 神様を礼拝すること

##### <詩篇 113 篇:1 節-2 節>

1 ハレルヤ。主のしもべたちよ。ほめたたえよ。主の御名をほめたたえよ。  
2 今よりとこしえまで、主の御名はほめられよ。

##### <詩篇 148 篇:1 節-5 節>

1 ハレルヤ。天において主をほめたたえよ。いと高き所で主をほめたたえよ。  
2 主をほめたたえよ。すべての御使いよ。主をほめたたえよ。主の万軍よ。  
3 主をほめたたえよ。日よ。月よ。主をほめたたえよ。すべての輝く星よ。  
4 主をほめたたえよ。天の天よ。天の上にある水よ。  
5 彼らに主の名をほめたたえさせよ。主が命じて、彼らが造られた。

##### <ペテロの手紙 第一 2 章 9 節>

9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

礼拝とはなんでしょうか？この英語の「worship (礼拝)」は、「worth (価値)」と「worthy (尊敬すべき)」から来ています。神様は私たちの関心と礼拝に値する方です。私たちが礼拝するとき、私たちは神様の価値と価値あることを認めることを宣言します。

私のテキストブックの一つである *Lexham Theological Wordbook* (レクザム神学単語集) には、礼拝について次のような記述があります。「礼拝とは、神様のすべてを包括する素晴らしさに対する被造物の敬虔な応答である。(イザヤ書 6 章 1 節-6 節;出エジプト記 15 章 11 節;詩編 148 篇 1 節-14 節)。」詩篇 148 篇は、先ほど引用した詩篇のひとつで、天使たちだけが神様を賛美しているのではなく、太陽、月、星までもが神様を賛美するよう求められているのを見てください。(神様を比喩的に賛美しているという意味だろうと思います。太陽、月、星は実際には歌う口を持ってません、しかし、ときどき夜空を見上げると、創造主の心の壮大さに驚嘆します。だから私は、天が神様を証ししていることを知っています。)

*Lexham Theological Wordbook* (レクザム神学単語集) 続けて読んでみましょう。

旧約聖書では、礼拝はさまざまな活動を含んでいました。神様に献げることは、礼拝の行為でした。(ヘブライ語で: *qārab*). 神様の臨在にひれ伏すことは創造主の前で、内に秘めた畏敬の念の態度を外に示すことでありました(*hāwā*). *hālal* という動詞は、神様を祝う行為を表すのに使われることができました。「ハレルヤ」は「ヤハウエを賛美する」という意味のヘブライ語の「*halēlū-yāh*」に由来します。この賛美には、「歌うこと」である *zāmar* が含まれることができました。礼拝とは、神様に「仕えること」(*ābad*) と言い表されることもできました。献身としての生活は、神様に全人生を献げることを象徴するものでした。

礼拝の特徴と言及された活動に注目してください。献げものをする。ひれ伏すこと。祝うこと。賛美すること（歌うことを含むかもしれない）。そして仕えること。そして、この説明の最後の一文をもう一度読みたいのです：“献身としての生活は、神様に全人生を献げること象徴するものでした。”私たちの全人生は神様に献げられます。日曜日の朝は、神様を礼拝するために集う特別な時間ですが、キリスト教は日曜日だけのものではありません。-クリスチャン生活はライフスタイル全体であり、人生のすべてを神様に献げるべきです。

人生のすべてを神様に献げるとは、新約聖書の礼拝に関する重要な箇所を思い出させます。

<ローマ人への手紙 12 章 1 節-2 節>

1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何がよいことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

クリスチャンとして、私たちの体、つまり私たちの全自身は、神様への生きた聖なる献げものであるべきです。そして、神様への生きた聖なる献げものは私たちの心も同様です。私たちは、心を変えられるように心を新たにし、世俗的な考えを取り除き、神様の考えに心を合わせるべきです。

今日のメッセージの次の部分に移りましょう。...

パート 2: イエス・キリストの福音を教え、宣べ伝えること

私は、マタイの福音書 28 章 19 節-20 節でイエス・キリストが弟子たちに与えた主要な任務である「大宣教命令」を思い出されます。

<マタイの福音書 28 章 19 節-20 節>

19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

行きなさい。

弟子としなさい。

バプテスマを授けなさい。

そして、キリストが私たちに与えてくださったすべての戒めを守るように教えなさい。

キリスト教会の第一の使命は、あらゆる国に行って弟子を形成するためにイエスキリストの福音を教え伝えることです。

みなさんは、以前、この箇所で私が言ったのを聞いたことがあるでしょう。マタイは福音の主な活動内容を、ルカはルカ 24 章に福音の主なメッセージ内容を記しています。ルカの福音書 24 章 46 節から 48 節にあるイエス様の弟子たちへの言葉です。

<ルカの福音書 24 章 46 節-48 節>

46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

48 あなたがたは、これらのことの証人です。

私たちの主からの本質的な使命はこうです。キリストが私たちの罪のために苦しんで死なれ、罪と死に打ち勝つ力を証明するために死からよみがえられたというメッセージとともに、罪の赦しのための悔い改めをすべての国民に宣べ伝えられるべきであるということです。

使徒パウロもまた、福音のメッセージの本質的な内容を示しています。

<コリント人への手紙 第一 15 章 3 節-4 節>

3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、

使徒の働きを読むと、使徒たちが屋内、屋外、家庭、会堂、市場など、さまざまな場所でメッセージを説いているのがわかります。使徒パウロは宣教の旅の間、新しい町に来ると、たいてい安息日に地元の会堂を探し、そこで旧約聖書から教え、来るべきメシアの預言がイエス・キリストにおいていかに成就されたかを示す機会が与えられました。教会の歴史を通して、日曜日の朝の礼拝では、聖書の朗読に続いて、教会の教師の一人による説教が行われてきました。礼拝であれ聖書研究会であれ、キリスト教の集会には常に教えの要素があります。キリスト教は「耳の宗教」と呼ばれていますが、それはキリスト教のメッセージを宣べ伝えて聞くことに大きな重点を置いているからです。

イエス・キリストの福音を教え、宣べ伝えることが、私たち大阪インターナショナルチャーチの教会目的の記述の2つ目の解釈です。では、メッセージの次の部分に移りましょう。

パート 3: 主の晩餐と洗礼を祝うこと

この2つの主の晩餐と洗礼は、キリスト教会の極めて重要なことであり、教会を独自の集団として示すものです。洗礼は個人が教会へ加わることであり、私たちがイエスキリストを救い主と信じて新しく生まれ変わったことを象徴すること、以前の生活状態から、イエス・キリストに従う者としての新しい生活となることです。主の晩餐は聖餐式とも呼ばれ、キリストが私たちの罪のために犠牲となって私たちの代わりに十字架で死んでくださったことを祝い、思い起こすものです。

キリスト教会のこの2つの主の晩餐と洗礼を祝うことは非常に重要であり、そのため、私は1つのメッセージを割いて、この2つの主の晩餐と洗礼を祝うことの背後にある象徴について詳しく説明しようと思います。そのメッセージは来月、今シリーズの3回目の説教でお伝えします。

今日のメッセージも中盤に差し掛かりました。復習のために、私たち大阪インターナショナルチャーチの教会目的の記述をもう一度引用して、私たちがこれまで取り上げてきた特徴と、これから取り上げる特徴をお見せしましょう。:

この教会の目的は次の通りです。

- (1)神様を礼拝する事
- (2)イエス・キリストの福音を教え、宣べ伝えること
- (3)主の晩餐と洗礼を祝うこと
- (4)私たちは、すべての人々を私たちの主の救いの知識に導くよう努める
- (5)神様の礼拝を共にする目的で、イエス・キリストに従う者同士を結びつける
- (6)人生のあらゆる関わりにおいて、イエス・キリストをよりよく知り、よりよく愛し、よりよく仕えること

次 ... パート 4 今日のメッセージ

すべての人々を私たちの主の救いの知識に導くよう努めること

数分前、マタイの福音書 28 章の大宣教命令を読みました。

私たちは行って、あらゆる国の人々を弟子とします。クリスチャンは、この福音のメッセージをすべての人々に伝えなければなりません。世界中に、そして私たちの隣人や友人、家族に。

私たちは、主イエス・キリストについての「救いの知識」について語ります。人々は福音のメッセージを知らされ、福音のメッセージを知る必要があります。しかし、それ以上に「救われる知識」という知識であるはずではありません。福音のメッセージを知るだけでは十分ではありません。救われる人々とは、福音のメッセージを受け入れ、福音のメッセージに基づいて行動し、キリストに信仰を置く人々のことです。

<使徒の働き 16 章 30 節-31 節 a>

30 そして、ふたりを外に連れ出して「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか。」と言った。

31 ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と言った。

<ローマ人への手紙 10 章 9 節-10 節>

9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

福音のメッセージを信じ、告白すること、これが救いの道です。

私たちの主の救いの知識、知識とはただ何かを知っている以上のものです。知的に何かを知ることができます。しかし、その知識に基づいて実際に行動しないなら、本当にその知識を信じているのでしょうか？若い頃、教会で人々が「18 インチのミス」と呼ばれるものについて話しているのを聞きました。つまり、たった 18 インチ (約 40 センチ) で永遠の命を逃してしまう可能性があるということです。それは脳から心臓までの距離です。クリスチャンのメッセージをただ知的に信じていますか？しかし、心でクリスチャンメッセージを抱いていないのではありませんか？もしあなたが本当に、心で福音を抱いているなら、

救いの福音の知識はあなたの全身に浸透し、クリスチャン生活の期待や命令を積極的に実践することを望むでしょう。

#### <ヨハネの福音書 3章 36節 >

36 御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。

イエス・キリストに従うことは、真に救われた信仰の一部です。もし誰かがキリストの命令に従おうという願いがなければ、私はその人が本当にイエスキリストを信じているクリスチャンだとは思いません。完璧な従順について話しているのではありません。この世で完璧に生きる者はいません。しかし真のイエスキリストを信じるクリスチャンは、主に従い、主の教えに従うことを望む者です。

ヤコブの手紙は新約聖書の中で好きな書です。その手紙の中で、ヤコブは私たちにクリスチャン生活を送るための実践的な教えを数多く与えています。ヤコブの手紙 1章 21節-25節を読みましょう。

#### <ヤコブの手紙 1章 21節-25節 >

21 ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。

23 みことばを聞いても行なわない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。

24 自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようなであったかを忘れてしまいます。

25 ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。

ヤコブは、自分の罪深い習慣に残っているものをすべて捨て去り、私たちの心に植えつけられた「(神様の) 言葉をへりくだって受け取るように」と強く勧めています。そして、神様の御言葉を聞くだけでなく、神様の御言葉に基づいて行動し、神様の御言葉を実践し、神様の御言葉を守ることです。神様の御言葉から聞いたことと読んだことを忘れてはいませんが、必ず神様の御言葉を実践して、クリスチャン生活を祝福されましょう。

この話題については、もっと言いたいことがたくさんあります。しかし、今日のメッセージの次の部分に移る時間です。

パート 5: 礼拝と交流のためにイエスキリストを信じる者達をひとつに結びあわせること

#### <エペソ人への手紙 4章 11節-13節 >

11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。

12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、

13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。

愛は教会生活すべてにおいて極めて重要な特徴です。クリスチャンとして成熟する道を歩みながら、愛をもって真実を語ります。私たちはそれぞれ、霊的にも社会的にも、私たちの人生のあらゆる領域で成長し、互いに高め合い、キリストの体である教会でそれぞれが役割を果たすことになっています。

私はヘブル人への手紙 10 章 24 節-25 節が大好きです。

<ヘブル人への手紙 10 章 24 節-25 節>

24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。

25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

教会に行くことをないがしろにははいけません。愛と良い行いに向かって互いに奮い立たせなさい。そして互いに励まし合いなさい。

<テサロニケ人への手紙 第一 5 章 11 節>

11 ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。

昨年春、私が教会員の人々にアンケートを配ったことを覚えていますか？神学校の授業のひとつの宿題でした。このアンケートは、OIC での教会生活の様々な側面について、うまくいっていることと、そうでないことの皆さんのご意見を伺うものでした。私が学んだ興味深いことの一つは、多くの皆さんが OIC の人々の間に見られる愛の表現が好きで、私たちは人々を歓迎する良い仕事をしているということです。しかし、それとは対照的に、何人かの人が、新しく教会へ来られた人を歓迎することは私たちが苦手としていることだと言っていることもわかりました。それは矛盾しているように思えます。多くの人が、私たちは新しく教会へ来られた方をうまく歓迎していると言い、また他の人たちは、私たちは新しく教会へ来られた方の歓迎をうまくやっていないと言いました。このことを私の神学校の教授に相談したら、教授から面白いことを言われました。「OIC が人を歓迎するのが上手だと思われたにせよ、下手だと思われたにせよ、これはあなたの教会が人を歓迎する場所であることを高く評価していることを示しています。」と教授はおっしゃいました。

さて、今日のメッセージの次の部分に移りましょう。

パート 6: 人生のあらゆる関わりにおいて、イエス・キリストをよりよく知り、より愛し、よりよく仕えること。

このトピックについて言いたいことはたくさんあります。子供の頃、母が連れてきてくれたルーテル教会の日曜学校で、クリスチャンとしての基礎を学んだことを懐かしく思い出します。10 代の頃に通っていた教会で学んだ聖書の物語も覚えています。しかし、大学に行って、私は違うタイプの教会に案内されました。John MacArthur が牧会している教会でした。彼は聖書の全巻を一節ずつ読んでいき、私は今まで聞いたことのないようなことを聞きました。子供の頃、一般的なクリスチャンの道徳や聖書の偉大な物語についてよく

聞きました。しかし、MacArthurがエペソ人への手紙を通読したとき、私は夫と妻が互いにどう関わるべきか、教会員が互いにどう関わるべきかという人間関係に関する多くの細かい忠告を学びました。聖書には、人間関係に関する多くの細かい忠告について私たちに指示を与えている箇所もまたたくさんあります。

すべての聖句を紹介することはできませんが、いくつか紹介しましょう。

<コロサイ人への手紙 3章 13節-14節>

13 互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。

14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。

愛と赦しはクリスチャンである兄弟姉妹との関係を導くべき最も重要な2つの美徳です。

もうひとつ、重要な聖句を伝えさせてください。

<マタイの福音書 7章 12節>

12 それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。

この「律法と預言者」という用語は、旧約聖書の言葉を言及しています。旧約聖書の基本的な命令は、自分が他の人にしてもらいたいと思うことを、他の人にすることで達成されます。私たちの多くは、欽定訳聖書でマタイの福音書 7章 12節を学びました。

<マタイの福音書 7章 12節>

12 それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。

私たちはこの聖句を「Golden Rule（黄金律）」と呼んでいます。一致してこれに従うことで、人間関係を調和させることができるからです。

今日のメッセージを最後に聖句の一節で締めくくらせてください。コリント人への手紙第二 5章の後半部分の 18節-19節はクリスチャンとしての私たちの生活の重要な側面を説明しています。

<コリント人への手紙 第二 5章 18節-19節>

18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自身と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自身と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

私たちはこの聖句で神様は私たちをキリストの犠牲によってご自身と和解させてくださったと読みました。そして今、私たちはこの「神様と人間との和解の使命」を託されています。私たち自身がそうであったように、誰もが神様と和解できるというメッセージを私たちは世界に持っています。

20節にはさらにこう言っています。

<コリント人への手紙 第二 5章 20節>

20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

私たちクリスチャンは今、キリストの大使です。私たちは、この地上の人々に対する神様の代理人であり、重要なメッセージを持っています。私たちは神様と人々と和解させるという使命が与えられています。キリストを救い主と受け入れ、神様と和解したあなた方は、神様と人々との和解のメッセージを周囲の人々、あなたの友人、家族、同僚、隣人に伝える使命があります。そして、今日ここにいらっしゃる、まだキリストを救い主として受け入れている人たちに、私たちクリスチャンは懇願します。神様と和解し、罪深い行為や態度から離れ、イエス・キリストに信仰を置いてください。今日の礼拝の後、牧師や私、あるいは後方の「Lift」の看板の前にいる人たちと話して下さると私たちは創造主なる神様と和解する道をあなたに示すことができます。

神様と和解し、神様を礼拝するために集い、同じクリスチャンたちと交わり、神様の御言葉に耳を傾け、神様の御言葉によって変えられ、キリストの大使となるという人々を神様のために形成することが教会の役割です。今日、私たちはこの場所から、私たちに与えられている神様と人々との和解の務めに新たな焦点を合わせ、他の人々を主イエス・キリストの救いの知識へと導いて行きましょう。